

指定校番号	28031	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	比治山小学校	校長	関 和典	生徒指導主事	佐藤 勝司
-----	--------	----	------	--------	-------

**取組事例名 『比治山ビッグゲーム』**

**取組のねらい『たて割り班で活動』**

異学年集団によるグループ活動を通して、異学年交流の楽しさを経験し、協力して問題を解いたり目的の地まで決められた時間内でゴールしたりする喜びを体験する。

**取組の具体的内容『低学年～高学年がチームの一員として参加する』**

- ① たて割り班で協力しながら、ポイント（15箇所）にある問題に答えたり、ゲームをしたりしながら歩く。問題への取組は得点として加算されていく。
- ② 決められた時間内にゴールする。
  - まんがグループ(1～24班) まんが図書館前スタート→さくら広場ゴール
  - さくらグループ(25～48班) さくら広場スタート→まんが図書館前ゴール



- 9月 9日(金) たて割り班名簿の完成（9月5日（月）～）
- 10月 21日(金) 代表委員会へ提案
- 10月 31日(月) 問題用紙締め切り(放課後までに児童会室へ提出)
- 11月 1日(火) 問題掲示用画用紙配付
- 11月 1日(火) 比治山公園へ下見に行く。(担当教職員)  
コース・危険箇所・トイレの確認
- 11月 4日(金) 6年生リーダー研修会（6年生担任）  
コースの説明や下級生に注意することなどを確認する。
- 11月 4日(金) 問題掲示用画用紙提出
- 11月 8日(火) 児童朝会(運動場)…たて割り班ごとに作戦会議 ※雨天時は体育館で行う。  
リーダーを中心に自己紹介や当日の注意点を話し合う。

○後日成績優秀チームの表彰を行う（計画委員会の手作り賞状）

## 取組の課題・創意工夫『やさしさいっぱいの問題や活動を考える』

(創意工夫)

- 3択問題で、全員で参加できるもの。
  - ・これまで各教科や総合の時間に学んできたことをもとに問題を作る。
  - ・特定の学級にしか分からない問題は避ける。
  - ・どの子も読めるように、問題文にはふり仮名を付ける。
  - ・6年生は1～4年生専用の問題を作成する。(6年生で分担を決める。)
- ゲームコーナーも全員で参加できるもので、なおかつ低学年も活躍できるものを考える。

## 取組の成果(効果) 児童の声『来年もやりたいの声いっぱい』

○保護者や地域の方々にも協力をして頂く全校で取り組むイベントは、子どもたちにはとても楽しみにしている。代表委員会における各クラスからの反省にも、  
「どの学年も協力してできた」  
「6年生が優しくしてくれた」  
「低学年だから解ける問題があってよかった」  
等のプラスの意見が多く出た。(代表委員会では100%の学級)  
また、5年生の中には、「来年は、自分がリーダーとなって、低学年をリードしていきたい」という意見もあり、意欲を感じられる。

## 今後の展開『存続か改善か』

1～4校時を使つての、名前の通り「比治山ビッグゲーム」である。授業時間数確保のため、内容や時間を縮小してはどうかという意見がある。また、多くの行事が秋頃にあり(運動会、音楽発表会、修学旅行等)、特に6年生の負担は非常に大きいという意見もある。

しかし、異学年交流の大切さや楽しさ、地域にある「比治山」の自然(秋)を感じる学びは、この活動以外には考えにくいという意見も多い。

子どもたちが自主的に取り組み、達成感を味わえる全校的な取組について、校務分掌を中心に代案を考えるが、なかなかいい案が出ない。

結局、計画～準備～実施まで時間を相当費やすという欠点はあるが、「比治山ビッグゲーム」は来年度も他行事との兼ね合いを考えながら継続したい。

## 他校へのアドバイスではないけれど『いつまでも心に残る行事』

多くの小学校では、たて割り班で、校舎内をウォークラリー形式で問題を解いたり、店のようなものを出してゲームをしたりする等の活動をするに取り組んでいる。上記のような活動は、本校のように1学年4クラス以上になると、校舎内あるいは運動場だけの活動が困難である。

しかし、比治山公園まで800人弱の児童・教職員が歩き活動を行う場合、保護者や地域の方に往復の交通指導や比治山公園内の見守りに協力してもらうなど、安全面での心配が伴う。大きな協力の下で実施していることは教職員も子どもたちも心に留めている。

「行事の精選」という言葉の元、この行事を縮小・削除することはたやすい。しかし、大きくなって母校の思い出の1つとしてしっかりと覚えてい続ける行事はそう多くはない。実際、教育実習に来る大学生が一番心に残る行事だったと話している。

地域の特性を生かした行事は必要ではないかと思う。